

平成28年度 授業改善結果の検証について

学校名 中央区立 久松小学校

校長名 酒井 寛昭

授業改善の基本方針	取組範囲 (○) 全教科・() 学習力サポートテストの教科・() 重点教科 学習力サポートテストや学力向上を図るための調査結果、児童の学習状況を総合的にとらえ、学級・専科で授業改善プランを作成する。その中で学年・学級や教科等における傾向を分析し、重点を絞って学校としての指導計画や授業の指導方法に修正を加え、実践していく。	
授業改善の主な取組	重点的に取り組んだ方策・特色ある取組 1 教科等の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動の充実を図る。 2 個々の学びを深めるために、小集団による主体的・対話的な課題解決型の学習活動を取り入れる。 3 児童が学びの広がりや深まりを確認できるようにするために、教科等の特性に応じて、授業の終末に学習を振り返る活動を取り入れる。	成果または課題 (成果) 小集団活動によって互いの考えを共有し、自らの考えを再構築できるようになった。国語科で身に付けた文章構成や文末表現を工夫する力を、他教科の言語活動に生かすことができた。小集団活動を核としながら、スモールステップで指導を積み重ねたことによって、児童が学びへの達成感を味わえるようになった。 (課題) 自分の考えを深めるための時間を授業展開の中で確保することが課題である。思考力の深まりや定着には個人差がある。
個に応じた指導の工夫	重点的に取り組んだ指導の工夫 児童の個性や能力を生かすために習熟度別少人数指導やティームティーチングによる指導形態を工夫する。 また、意図的にペアや小集団・小グループ活動の場を導入し、学習状況を確認しながら個に応じた指導・助言を行う。	成果または課題 (成果) 個々のつまずきに応じた段階的な指導を工夫することによって、学習に対する児童の集中力が高まった。ICTや具体物の活用によって、学習内容の理解が深まった。 (課題) 学力がほぼ同程度の習熟度別のクラスでは、どんな目的で小集団活動を設定することが適切あるか検討していく。
授業改善の検証方法	検証として取り組んだ項目に○を付けてください。 (○) 管理職による授業観察の検証 (○) 教員相互での授業参観による検証 (○) 校内研究での検証(研究授業等含む) (○) 学習力サポートテスト、定期テスト等の結果による検証 (○) 作品や提出物の評価による検証 (○) 学校評価における教員の自己評価の検証 (○) 保護者及び児童・生徒アンケートによる検証 (○) 外部評価委員会における検証 () その他< >	
授業改善の主な結果	当てはまる項目に○を付けてください。 <児童・生徒> (○) 学習意欲がより高まった。 (○) 基礎的・基本的な学習内容がより定着した。 (○) 知識・技能の活用能力や問題解決能力が高まった。 (○) 学力(学習の到達度)の向上が図られた。 <教員> (○) 指導の工夫や教材開発が図られるようになった。 (○) 授業の指導技術が向上した。 (○) 個に応じた指導がより一層図られるようになった。 () その他< >	